waseda
System Development

MAPPS story

Series Column

Why do we built this platform?

内田 剛史
早稲田システム開発株式会社
代表取締役

Ep. 7
MAPPSの
データセンター

自分の手元が一番危ない

利用を予定するデータセンターは「とにかく堅牢」という評判でしたが、やはり自分の目で確認するのが一番。というわけで、センターを見学することになったのですが…まさに「身をもって」その安全性を体験することになりました。

MAPPS 事業を、構想から計画へ。現実として考えるにあたり、選択次第では大きな障害となり得るデータセンターを、この目で確かめておきたい。私は、スタッフとともにインフォコム社のセンターの見学に出かけました。

現地を訪問する前に、事前に届け出なければなりませんが、３日前までに文書で申請するよう指示を受けました。この時点で「ちょっと様子を見に行く」…という気分は消し飛んでいましたが、実際は想像以上のものでした。

侵入なんて無理です、この警備では…。

そもそも、視察の目的は「博物館がデータを安心して預けられるだけのセキュリティが整っているかどうか」を確認すること。警備が厳重であるほど喜ばしいのですが、正直、ここまで凄いとは考えてもみませんでした。

現地に到着すると、まず入り口で本人確認が行われます。本人であると証明されると、カードを受け取り、いざゲートへ向かうのですが、ここからして物々しいまでの厳重さ。空港のように金属探知機の検査をパスした後も、サーバ室にたどり着くまでに何度も「関所」を通過します。今回は、少なくとも３度はチェックを受けたでしょうか。

また、こうしたチェックポイントを通れるのは、常に１名のみ。複数の人が一度に通り抜けることができない仕組みになっているそうです。今風のデジタル警備だけでなく、アナログな方法を併用したダブルチェック体制は、「そこまでしますか」と言いたくなるほど徹底されていました。

せっかくなので、ルパン一味のような気分で周囲を観察しましたが、どう考えても部外者がサーバ室に侵入できそうな隙はありませんでした。ミッション・インポッシブル。

まるで国家機密でも扱うような物々しさ！

さて、警備の厳しさに満足したら、次は緊急時の対応力のチェックです。以前、あるユーザを訪問した際に停電が発生し、使用中のシステムが止まったことがあったのですが、SaaS ではこうした事態は御法度。インフォコム社のデータセンターは、大丈夫なのでしょうか。

結論を言えば、セキュリティ体制以上に驚くべきものでした。まず、地下に重油タンクが、その階上のフロアには発電機が置かれており、電源対策は十分。と言うよりも、発電機だけで広大な１フロアを占領。さらにその上のフロアには、大量の UPS（無停電電源装置）がズラリと並んでおり、絶句するしかありませんでした。

空調に監視ルーム、その他諸々の強力な設備群。詳しくは添付資料に譲りますが、それはほとんど要塞のような堅牢さ。私ごときが「警備や災害対策は大丈夫？」などと質問したこと自体が恥ずかしくなるほどの本気ぶり。

もはや鉄壁。ここまでやれば、護れないものなどあるはずがない…それが、率直な感想でした。

翻って博物館の環境を眺めてみると、専用のサーバルームを持たず、学芸員室にサーバを置く館も少なくありません。展示室と事務室の間の扉が施錠できない館もあるだけに、データセンターの堅牢さが際立ちました。

自分の手元に置いておけば安心であるように感じますが、環境によっては、むしろ最も危険な行為となりかねません。予算が少ない館であるほど、データは専門機関に任せるべき。そう確信できる見学となりました。

第３回　平成 21 年９月 28 日発行

早稲田システム開発 株式会社
TEL：03-6908-3500　FAX：03-5983-0901
〒161-0033　東京都新宿区下落合３丁目 21 番１号　NK・フジビル７階

※無断転載を禁じます。